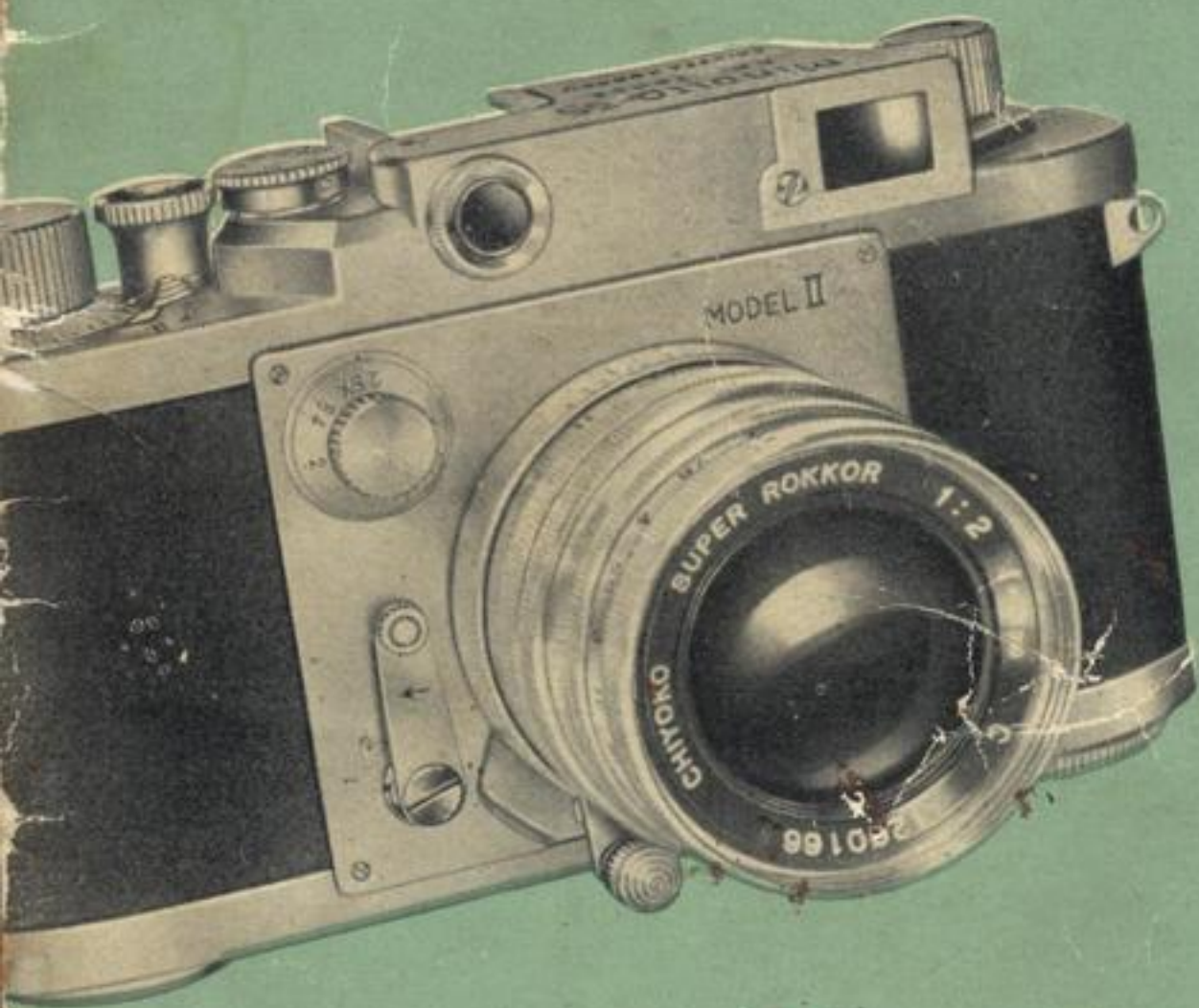


# Minolta-35

II 型



使用書



# Minolta-35 Model II

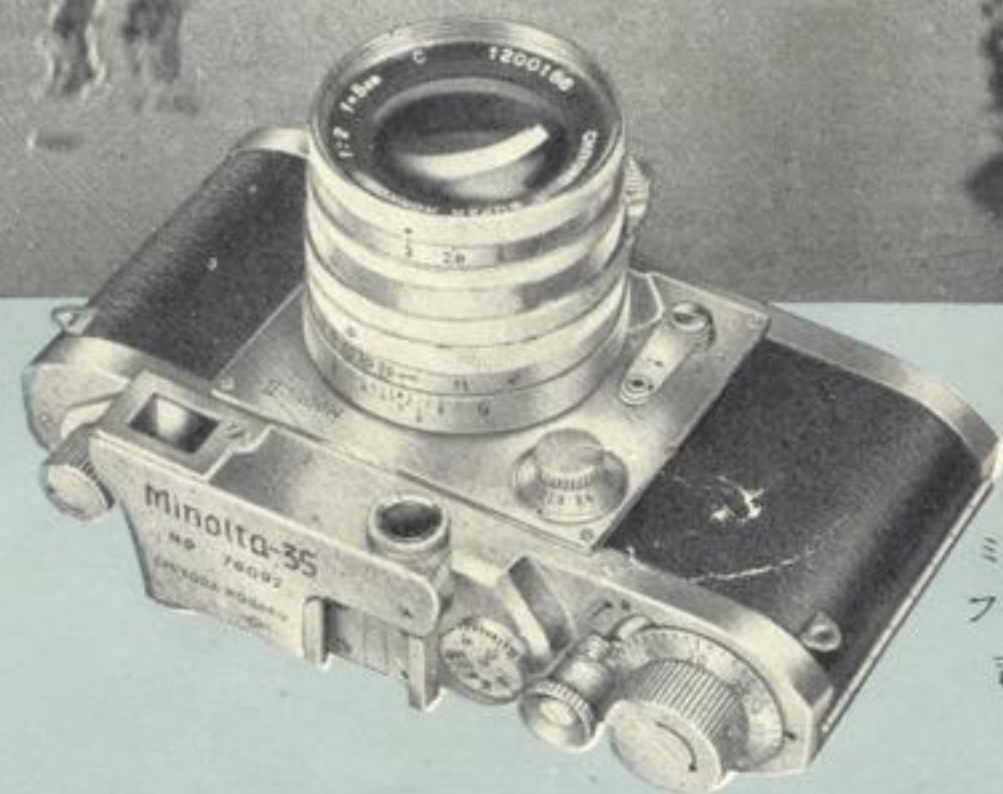
ミノルタ35は、戦後いち早くライカ型カメラの殻を破って多くの画期的な機構を採用し、最も進歩した35ミリカメラとして生まれましたが、当時その進歩的なアイデアと独創的な機構はカメラ愛好者の間に非常に好評を拍しました。その後種々改良を加えE型F型を経て現在のⅡ型となり、最高級の万能カメラとしてあらゆる分野に活躍しています。

早くしかも容易にフィルムが装填できる蝶番式の裏蓋開閉、スナップに偉力を発揮する精密な一眼式連動距離計ファインダー、便利な時限調節式セルフタイマーのほか多くの優れた性能をそなえたミノルタ35Ⅱ型は、優秀なロッコール交換レンズ群と一体となって、一台でよく数台の異なるカメラの働きをします。

## ミノルタ35の標準レンズ

スーパーロッコールレンズは、開放絞より各絞を通じて焦面変位が少く、解像力、鮮鋭度何れも一流レンズとして最高のものでありF2.8は尖細な描写をF2は明快な威力を周辺まで発揮します。

又このレンズは、カラーフィルムに最適で色収差がなく、カラーバランスのとれた優秀品として、内外の専門家より推賞されていることはすでに御存知の通りであります。確かに一度お使いになった方は皆御満足をしておられます。スーパーロッコールレンズには我が国最初の等間隔絞が採用されていますので、中間絞をする場合に大変便利です。又絞はクリックシステムになっています。

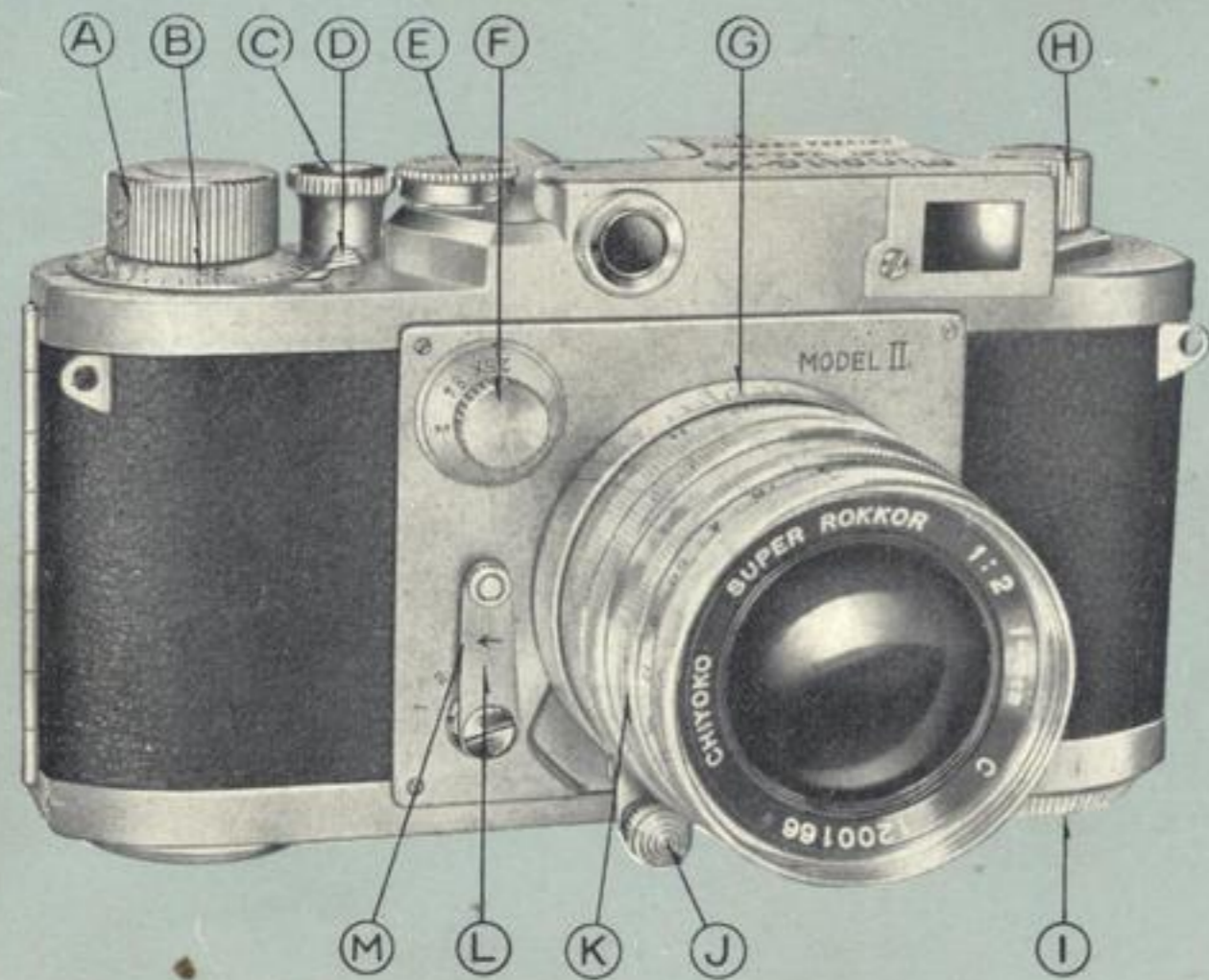


ミノルタ  
ファミリー会員  
吉井如月氏撮影

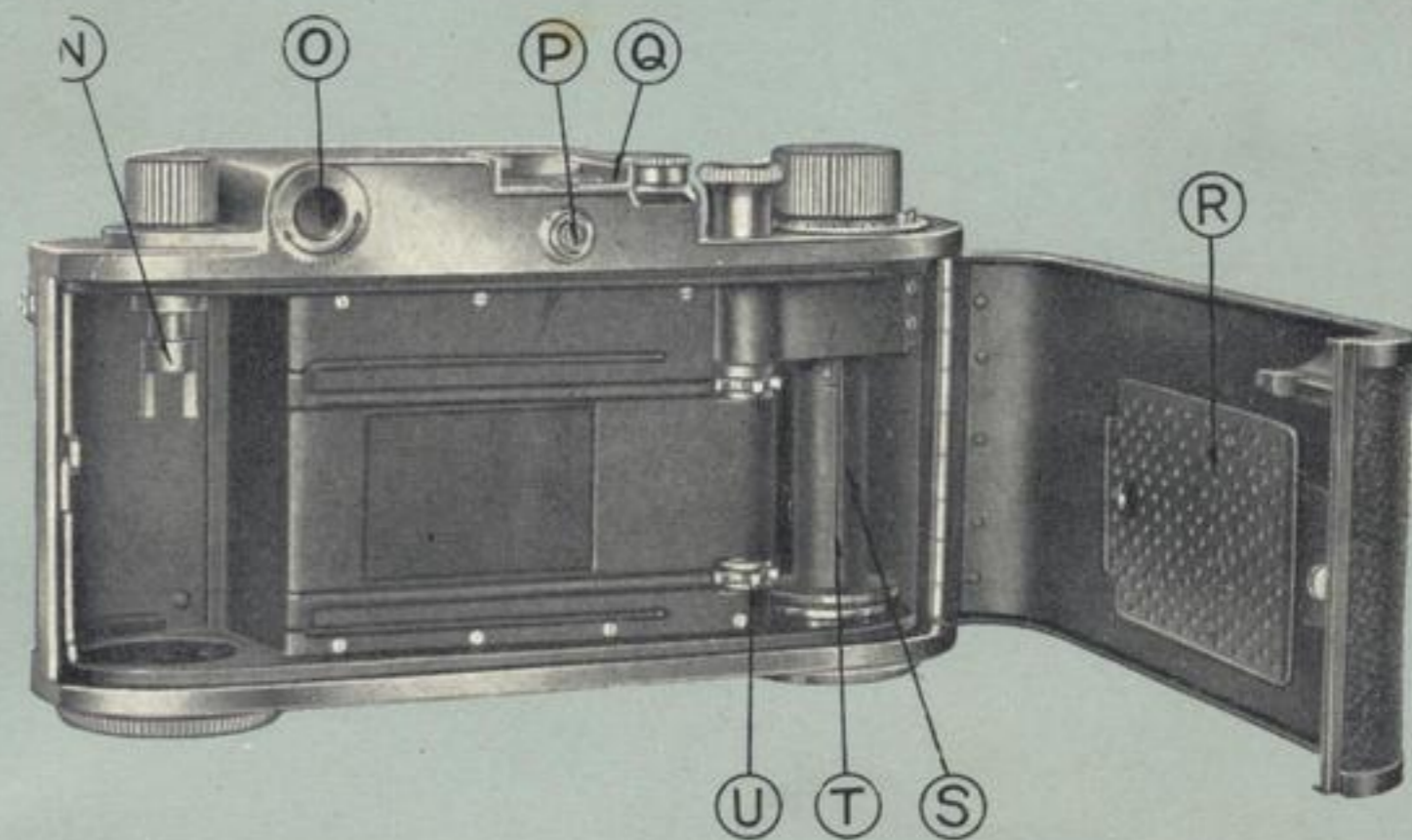
㊂





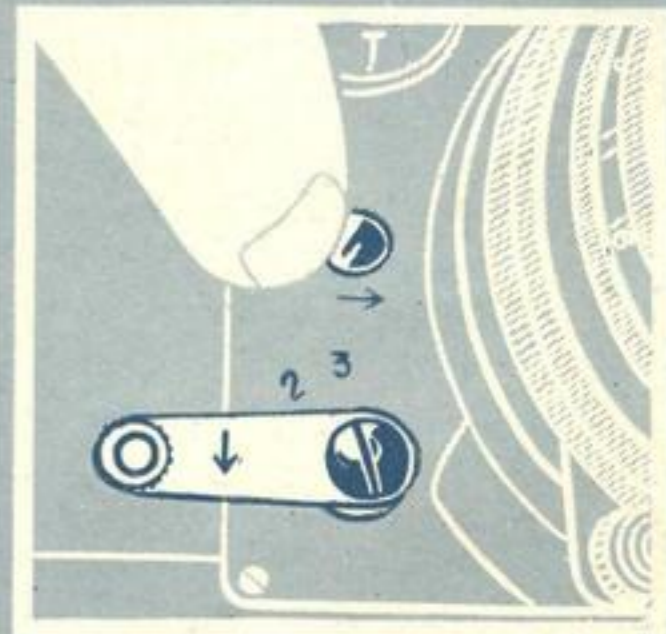
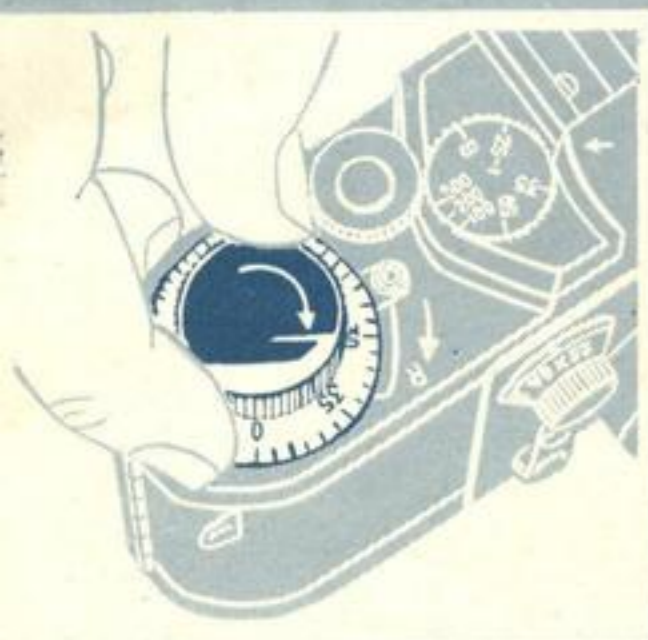


- A. フィルム巻上げノブ
- B. 撮影枚数表示盤
- C. シャッターボタン
- D. フィルム巻戻しレバー
- E. 高速シャッターダイヤル
- F. 緩速シャッターダイヤル
- G. 焦点深度目盛
- H. フィルム巻戻しノブ
- I. 裏蓋開閉鍵
- J. 焦点調節レバー



- K. 等間隔絞リング
- L. 時限調節セルフタイマー
- M. セルフタイマー始動ボタン
- N. 巻戻しシャフト
- O. レンジファインダーのぞき窓
- P. シンクロターミナル
- Q. アクセサリーシュー
- R. フィルム圧着板
- S. フィルム捲取り軸
- T. フィルム挟みクリップ
- U. フィルム巻上げスプロケット





## ミノルタ 35 II 型の扱い方

### 1. フィルムの捲上げ

フィルム捲上げノブ(A)は止まるところまで回して下さい。フィルムが一コマ送られ、同時にシャッターがセットされます。

捲戻しレバー(D)がRの位置にある時は、フィルム捲上ノブを回しても止まりませんから注意して下さい。

撮影枚数表示盤(B)は、フィルムを装填した時に爪先で回して矢印に0を合わせると、フィルム捲上ごとに一目盛進行して撮影済の枚数を自動的に示します。

### 2. シャッター速度の調節

次の作用は、フィルム捲上ノブを回して、自動的にシャッターをセットしてからでないと行われません。

高速シャッターダイヤル(E)のB, 25, 35, ... 500の数字は、それぞれバルブ((3)参照)  $\frac{1}{25}$ 秒、 $\frac{1}{35}$ 秒...  $\frac{1}{500}$ 秒のシャッター速度を示し、緩速シャッターダイヤル(F)のT, 1, 2, 4, 8, 25は同じようにタイム((4)参照)1秒、 $\frac{1}{2}$ 秒、 $\frac{1}{4}$ 秒、 $\frac{1}{8}$ 秒、 $\frac{1}{25}$ 秒のシャッター速度を示します。シャッター速度を調節してからシャッターボタン(C)を指先で押せば合わせてある速度でシャッターが切れます。

#### (1) 高速シャッター

$\frac{1}{25}$ ~ $\frac{1}{500}$ の場合には、高速シャッターダイヤル(E)をつまみ上げて回しダイヤルの数字を矢印に合わせます。この時は緩速シャッターを $\frac{1}{25}$ に合わせおかねばなりません。

#### (2) 緩速シャッター

$\frac{1}{2}$ ~ $\frac{1}{8}$ の場合には、緩速シャッターダイヤル(F)を回してダイヤルの数字を・印に合わせます。この時には高速シャッターを $\frac{1}{25}$ にしておかねばなりません。

#### (3) バルブシャッター(B.)

高速シャッターダイヤルのBを矢印に合わせます。シャッターボタンを押している間シャッターが開いています。この時は緩速シャッターを $\frac{1}{25}$ にしておかねばなりません。

#### (4) タイムシャッター(T.)

緩速シャッターダイヤルのTを・印に合わせてシャッターボタンを押すとシャッター幕が開きます。閉じるためにはTの位置から1秒目盛の方へ回せばよろしい。この時高速シャッターは $\frac{1}{25}$ に合わせておかねばなりません。

### 3. セルフタイマー

セルフタイマーのレバー(L)を矢印の方向に動かせばどの位置にでも止まりますから作動時間を自由に調節出来ます。始動ボタン(M)を矢印の方へ押すとレバーが動きだし自動的にシャッターが切れます。

レバーを止まるところまで横に倒した時は8~9秒位、1~3の間に置けば8~3秒位でシャッターが切れます。

**注意** セルフタイマーのレバーを倒しておいても、シャッターボタンを押すとセルフタイマーは働かず、すぐにシャッターが切れてしまいます。従ってセルフタイマーを使う時はシャッターボタンは押さずに、セルフタイマー始動ボタンを矢印の方向に押して下さい。





#### 4. 絞りの調節

絞リング (K) を回して・印に適切な絞目盛を合わせます。クリック式になっていますからカチリと止まります。又、等間隔絞になっていますから目盛の直中では中間の絞になります。



#### 5. 焦点調節

レンジファインダーのぞき窓 (O) をのぞきながら、焦点調節レバー (J) を左右に回すと、レンズ部が前後進してファインダー中央の距離計の丸い像と、ファインダー全体に見える像とが重なったり離れたりします。この二つの像が一つに重なった時が焦点の合ったときです。

赤外線フィルムを使用するときは距離目盛を読んでその数字を焦点深度目盛 (G) の R のところまで、(F 2.8 レンズでは焦点深度目盛 5.6 の・印まで) ずらして下さい。ファインダーの視野は、フィルムに写る範囲よりやゝ狭くっておりますから速写に便利です。

#### 6. ファインダーの視度調節装置

ファインダーの接眼部を回して、あなたの視度に合わせると、ファインダーが見やすくなります。



特に老眼や遠視眼の方にこの装置は大変便利です。

#### 7. フラッシュシンクロナイザー

このシンクロナイザーはドイツ式の二極式コードのプラグが使用されます。プラグをシンクロターミナル (P) に差込んで下さい。二極式ですから発光器をカメラのアクセサリーシューに取りつけても、又はカメラからはなしても同調発光します。

閃光電球はフォーカルプレーン用の F.P 球を使って下さい。

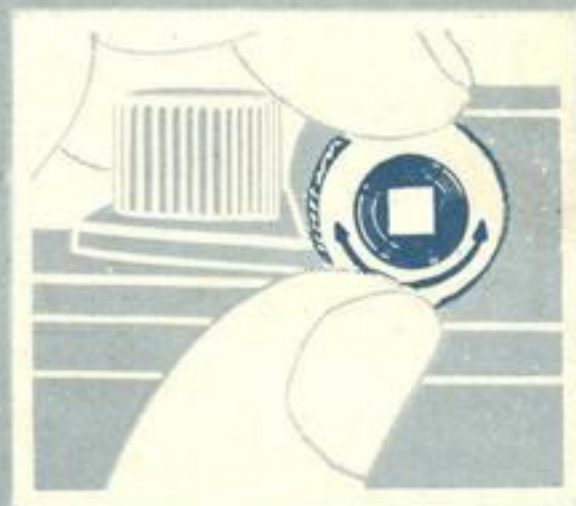
ストロボを使う場合は X 接点に切り換えます。

1. 緩速シャッターダイヤルの赤 X を・印に合わせます。
2. 高速シャッターダイヤルの 25 を矢印に合わせます。

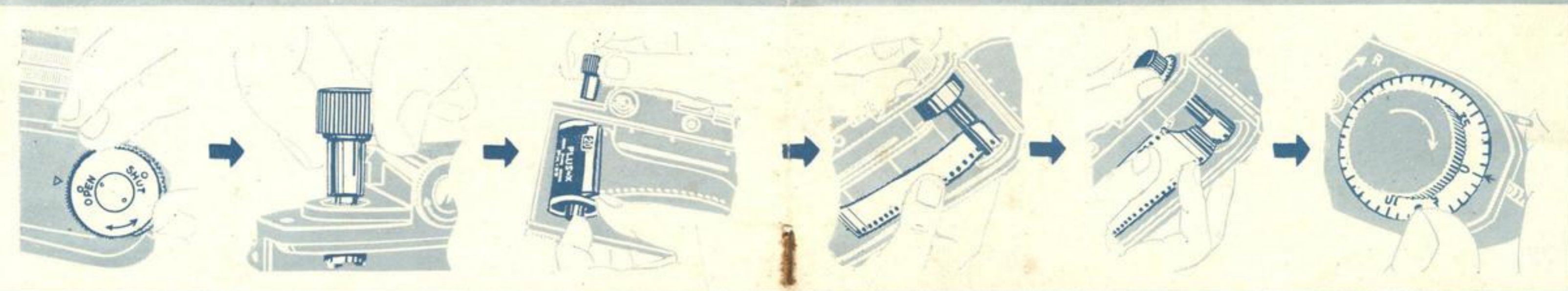
ストロボを使用すると  $\frac{1}{25}$  秒に同調発光します。又  $\frac{1}{8}$  以下の緩速度の目盛を・印に合わせるだけでもストロボが使えます。

#### 8. レンズの取りはずし

レンズは時計の針の反対の方向に回転するとはずれます。ミノルタ 35 には、ライカマウントの交換レンズはすべて取りつけて使用出来、距離計に連動します。







## フィルムの装填

1. 裏蓋を開けて下さい。上図のように裏蓋開閉鍵を回して、Open を△印に合わせると裏蓋が開きます。
2. 捲戻しノブ(H)を一ぱいに引上げてパトローネを入れ、パトローネの軸に捲戻しシャフト(N)を確実に噛ませてノブをしっかりと押し込んで下さい。捲戻しノブが入らない時はノブを少し左右に回すと入ります。
3. 捲上げノブ(A)を回して、捲取軸上のフィルム挟みクリップ(T)を上側に出し、フィルムの先端を差込みやすい位置において下さい。  
**注意** ノブが回らなくなれば、シャッターボタン(C)を押して更にノブを回し、フィルムを差込みやすい位置にして下さい。  
 次にフィルムの先端をフィルム挟みクリップに差込み、フィルム捲上ノブ(A)を軽く巻きながら、フィルムの両側の穴(パーフォレ

ーション)がスプロケット(U)に完全に噛み込んでいることをたしかめて裏蓋を閉じて下さい。裏蓋開閉鍵を回してShutを△印に合わせると閉まります。

4. フィルム捲上げノブを止まるまで回してフィルムを送り、シャッターを切って下さい。これを2~3回くりかえして装填中に感光したフィルムを捲取っておきます。
5. 撮影枚数表示盤(B)についている突起を爪先で押して回し、矢印に0を合わせて下さい。1枚撮影してフィルムを捲上げるとに1コマ進行し39枚まで表示されます。

以上でフィルム装填が終り、カメラはすぐに使用出来る状態になっています。

**注意** フィルム装填中に、シャッター膜にさわったり押えたりしないよう注意して下さい。





## 撮 影 の 仕 方

1. フィルム捲上げノブを止まる所まで回してフィルムを捲上げて下さい。自動的にシャッターがセットされます。捲戻しノブ(H)が捲上げごとに回転しているのはフィルムが進行している証拠です。
2. シャッタースピードの目盛盤を回して御希望のスピードに合わせて下さい。
3. 絞リング(K)を回して御希望の絞の大きさにして下さい。(次頁の絞とシャッター速度の関係を御参照下さい。)
4. ファインダー(O)をのぞきながら焦点調節レバーを回して焦点を合わせます。
5. カメラをしっかり握って顔に当て動かないように保持して下さい。1/25秒以下のスローシャッターを切るときは、三脚を使うか適当な固定した物の上に乗せるか、そわせるかしてカメラがゆれないようにして下さい。
6. シャッターボタン(C)を軽く自然に徐々に押して下さい。力を入れて押すとカメラがゆれます。フォーカルプレーンシャッターは軽快な音を立て、作動し御希望の露出が得られます。

一度シャッターを切った後は、フィルムを捲上げなければシャッターは切れず二重露出は出来ません。

### 露出時間の決定

写真の撮影には正しい露出を決めることが最も大切な条件であります。露出の決定は大体光線の強弱、季節、時間、フィルムの感光度によって決められます。これらの諸条件については簡単に説明することがむづかしく、初心者の方には反ってわずらわしくなりますから、露出計を師友として実際について体得されるのが最も早い上達の道です。

## 絞とシャッター速度の関係

レンズ鏡胴にある、2, 2.8, 4, 5.6, 8, 11, 16 の絞目盛はレンズの明るさを示したもので、この数字が小さい程明るいレンズとなります。レンズを通過してフィルム面に達する光線の量は、下の図のように絞を一段変えるごとに約二倍の割合で増減します。

絞	2	2.8	4	5.6	8	11	16	22
光量	1	1/2	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64	1/128

フィルム面に達する光量は、このように絞によって調節されると同時に、シャッター速度によっても変化しますから、同じ露出を与える場合でも被写体や撮影の目的によって絞とシャッター速度の組合わせを色々に変えることが出来ます。仮りに、絞 F 5.6 シャッター速度 1/50 秒が適正な露出量とします。若し運動体を撮影しようとするれば更に速いシャッター速度が必要となります。仮りにシャッター速度を 1/100 秒にすれば光量は 1/50 秒の半分になりますから、F 5.6、1/50 秒と同じ露出を与えるには絞の方は F 4 にして光量を F 5.6 の倍にすればよいわけです。逆に焦点深度(13頁参照)を深くするため絞を F 8 に絞ると光量は F 5.6 の半分になりますから、その時はシャッターを 1/25 秒にすれば F 5.6、1/50 秒の場合と同じだけの光線がフィルム面に達することになります。





## 焦点深度について

焦点深度とは、或る距離にある目的物に焦点を合わせた場合、その焦点距離にある目的物は勿論尖鋭な焦点が得られますが、その被写体の前後にもある程度焦点が合います。この焦点の合っている前後の深さを焦点深度と云います。焦点深度目盛(G)はその焦点深度を簡単に表したものです。5米の距離に被写体がある場合、F8に絞ると左右のF8の示す距離目盛の間、即ち約3.5米から10米の間に焦点が合います。焦点深度は絞を小さくする程深くなります。

左の写真と比較すればわかるように、絞を小さくすれば、上の写真のように被写体の前後もハッキリと写りますが、絞を大きくすれば下のように焦点を合わせた被写体だけが尖鋭に写ります。但し、前頁の説明のように絞を小さくすればする程、露出時間を多く要する事は勿論です。



## フィルムの捲戻し

捲上げノック(A)はフィルムを写し終わってしまうと動かなくなります。(更に強く回すとフィルムがパトローネから外れて空写しになりますから注意して下さい。) 撮影済のフィルムを次のようにしてパトローネに捲戻して下さい。

1. 捲戻しレバー(D)を矢印の方向に動かしてRの位置に置いて下さい。
2. 捲戻しノック(H)を引き上げて矢印の方へ回すと、写したフィルムは元のパトローネの中へ捲き戻されて行きます。フィルムが捲取りスプールからはずれるとノックは手ごたえが軽く回るようになりますが、更にノックを回してフィルムを完全にパトローネに捲戻して下さい。
3. 裏蓋開閉鍵を回して裏蓋を開けフィルムを取出します。



## ミノルタアクセサリー ミノルタ レンズフード

50 mm F 2 用レンズフード(別称 43 mm レンズフード)

50 mm F 2.8 用レンズフード(別称 40.5 mm レンズフード)

この50mm用レンズフードはアダプターリング(レンズへの取付け部)、丸型フード、及びアダプターリングインサート(フィルターだけを取付けるときの押えリング)からなっています。レンズフードは、無用の有害光線がレンズに入るのを防ぎ、すっきりとした写真を作るために必要で、特にシンクロ撮影には絶対に欠く事が出来ません。

## ミノルタ フィルター

フィルターは被写体の持つ色合を肉眼で見た感じと同じ濃淡に表現し、又色々な効果を得るために四季を通じて欠くことのできないものです。

ミノルタフィルターは、ロッコールレンズの性能を生かすために厳選されたガラス材料を使用し、処理加工検査も特に厳重にしておりますから安心して御使用頂けます。ミノルタフィルターには用途に応じてUV、Y系、O系、R系Gの各種があります。フィルターはF2レンズ用 F2.8レンズ用いづれもシリーズⅥサイズで共通です。







ロッコール コーテッド  
(広角)  
f=35mm F:3.5

スーパー ロッコール コーテッド  
f=50mm F:2.8 f=50mm F:2

スーパー ロッコール コーテッド  
f=85mm F:2.8

テレ ロッコール コーテッド  
f=135mm F:4



## ミノルタの交換レンズ

ミノルタ35にはあらゆる目的物に適した交換レンズが用意されています。スナップ、ポートレート、動植物のクローズアップから遠景やスポーツの撮影にロッコールの持つ偉力を十二分に発揮します。ライカマウントですから他のレンズ交換の出来る35ミリ判カメラに御使用になっても御満足を得られます。

### ロッコール コーテッド f=35mm F:3.5

包括角度 63°の広角レンズですから撮影範囲が広く、又 50ミリ標準レンズに比べて焦点深度が非常に深いため、スナップに大きな偉力を発揮します。又広い写角を利用して狭い室内の撮影にも適しています。最新のコーティングによって、特にカラー撮影での忠実な色彩の表現は他の追随を許しません。

包括角度63° 重量 160g. 高さ 3.8cm. 等間隔クリックストップ絞

スーパー ロッコール コーテッド f=50mm F:2.8  
包括角度 45° 重量 230g. 高さ 4.3cm (標準レンズ)

スーパー ロッコール コーテッド f=50mm F:2  
包括角度 45° 重量 240g. 高さ 5.3cm (標準レンズ)

スーパー ロッコール コーテッド f=85mm F:2.8  
肖像、動植物、建築物のクローズアップ及び遠景撮影の目的に最も適したレンズです。画像は標準レンズの1.7倍  
包括角度 26° 重量 370g. 高さ 7.6cm

テレ ロッコール コーテッド f=135mm F:4  
望遠レンズとして遠景、スポーツ撮影等にその望遠力を100%に発揮します。画像は標準レンズの2.7倍  
包括角度 17° 重量 520g. 高さ 10cm



## オートアップレンズ

カメラの最短距離以内の近接撮影にはオートアップレンズをお使い下さい。ミノルタ35用のオートアップレンズは接写レンズと距離計連動補助レンズが一体になっています。レンズに取付ければ後はファインダーをのぞいて普通と同じように焦点を合わせるだけで簡単に接写が出来ます。撮影範囲は1mから50cmまでで最短距離撮影用の視差矯正指針がついています。

## ミノルタジュニア-B.C. 発光器

1. ポケット用としての超小型ですが、積層電池使用ですから、発光器としての最高性能をもっています。
2. 本体はプラスチックで反射傘はアルミ製13枚羽根疊込み式であり、ビニールのシンクロコード、ビニールケースが附属されてあって、非常にスマートなそして軽量の発光器です。
3. 単3電池二本を入れて使うことも出来ます。(その時は発光器のターミナル位置を変えて下さい)。
4. 閃光球の断線及び電池の良否を点検するテストランプがありますから、不良閃光球又は不良電池による失敗はありません。
5. 使用済閃光球は、発光器上部のピンを押せば、自動的に放出できますから火傷等の危険が一切ありません。  
注意 スワソケットの閃光球以外は使用出来ません。



## 簡易露出表

春秋 快晴 F8 パンクロフィルム

被写体 \ 時間	6-6	7-5	8-4	9-3	10-2	11-1
展けた山・海	1/50	1/100	1/200	1/500	1/1000	1/1000
展けた風景	1/35	1/50	1/100	1/200	1/200	1/500
普通風景	1/25	1/35	1/50	1/100	1/200	1/200
明るい街路	1/4	1/8	1/25	1/50	1/100	1/100
近い風景	1/2	1/4	1/8	1/25	1/50	1/50
直射日光下の人物	1/2	1/4	1/8	1/25	1/50	1/50
薄暗い風景 軒下人物	1	1/2	1/4	1/8	1/8	1/8
明るい室内 窓際の人物	3	2	1	1/2	1/4	1/4

時間の欄 左が午前 右が午後 露出時間は秒  
明るい曇天の場合 約2倍 冬は2倍 夏は1/2  
他の絞による場合 次の比較表で調節する

F	2	2.8	4	5.6	⑧	11	16	22
割合	1/16	1/8	1/4	1/2	1	2	4	8倍



1 ft = 0.3048 m



千代田光学精工株式会社